

自己点検・自己評価報告書

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

大阪自動車整備専門学校

令和7年4月30日作成

1.理念とミッション

本校は教育基本法及び学校教育法、その他の関係諸法令に基づき工業専門課程を設け、優秀なる自動車整備技術者の養成を目的とすることを基盤とした教育理念を掲げている。

また、「知識・技術・徳育」という理念の下、知識・技術のみならず人間性を育成し、人としての成長を目指すと同時に、それら一方に偏ることのないバランスの取れた実践的教育・指導を行っていく。

2.アドミッションポリシー(入学受入れの方針)

本校の特色や教育理念を理解し、自動車整備の知識・技術を習得して、国家資格である2級自動車整備士となり、時代を牽引する自動車業界の担い手となることを志す、情熱にあふれた人を受け入れる。

3.受験資格

1. 高等学校を卒業見込み者、または高等学校卒業者。
2. 文部科学省が行う大学入学資格検定、高等学校卒業程度認定試験合格者。
3. 外国において、通常課程による12年の学校教育を修了した者または高等学校に準ずる教育を受けた者で以下のいずれかにあてはまる者。
 - ・日本語能力試験2級またはN2合格者
 - ・法務大臣の指定する日本語学校において、6カ月以上の教育を修了した者でその間の出席率が90%以上の者
4. 上記1・2・3のいずれかに該当する者で自動車整備技術の学習、及び普通自動車運転免許(AT限定車を除く)取得が可能な者。

4.入学者選抜の方法

本校の入学選考は、指定校推薦入試・自己アピール推薦入試では面接のみ、一般推薦入試・一般入試では、数学による適性試験と面接を行う選考システムを採択している。面接試験に関しては面接シートを作成し、それに従って校長が公平な審査を行っている。入試直前には全教職員による全体会議を行い、今年

度の入試方針、要綱、審査方法等の周知に努め、公平かつ適正な入学選考を実施している。

自己判定：入学選考については、毎年度厳正な審査のもと選考を行っており今後も徹底して維持に努めていく必要がある。

毎年、第1次入試の受験者が多いが、準備を徹底して臨んでいるため、入試そのものは滞りなく実施できたと考える。

5.入学者募集の方法

学生募集活動としては主に、各種広告媒体会社を通じ広報活動を行っている。インターネットでの学校案内、募集要項の掲載をはじめとした情報提供ならびに、本校広報担当職員が会場説明会、高校説明会等で学生の誘致を行っている。また、通年でオープンキャンパスを実施しており(今年度は20日間)、学校説明・設備見学・体験実習・個別相談を行っている。体験実習では実際に実習車を使ってエンジンの分解と組立、マフラー交換、ホイールアライメント測定、日常点検などを体験することができる。ディーラーとのコラボ企画も行っており、各ディーラーの自動車を教材にしたデモンストレーションやタイヤ交換、下回り点検など、多彩な実習体験ができる。

また、今年度から留学生に限定したオープンキャンパスを実施した。

通常のオープンキャンパスは日本人を想定したものであるため、留学生のための時間を取ることが難しく、十分な対応ができていただろうかと感じることもあった。そこで今年度は入試が始まるまでに10回(約月2回)、留学生限定のオープンスクールを実施し、その後通常のオープンスクールにも参加してもらい、留学生が不安なく入試に臨めるような取組みを実施した。

その結果、令和7年度の入学生は10名に増加した。

自己判定：高校説明会において実習体験を含むガイダンスは特に毎回好評で、自動車に興味のある高校生の意欲を掻き立てる効果を生み出している。オープンキャンパスでの体験実習においても、毎年実習内容

を見直して、工夫を重ねていることから何度も参加するリピーターが多く出ている。また、実際に参加した学生にはアンケートの記入を依頼しており、「先生が丁寧に教えてくれた」「体験実習がおもしろかった」と好評を得ており、学校選びに雰囲気重視の学生の傾向に沿った内容になっていると考えている。

ホームページ・SNS 利用に関しては、最新の情報や学校での様子を日々アップする事で、実情に近い雰囲気を感じ取ってもらい、入学してからの学校生活を想像してもらえるように考えている。

留学生限定のオープンスクールは新たな取組みとして効果があったと感じている。留学生に関しては入学してもらうだけでなく、国家資格取得に向けてしっかりと指導することも重要であるため、日本語レベル等について事前に理解してもらう手段として有効であった。選考は今までと同様に堅実に行った。

6.カリキュラムポリシー

国家資格である二級自動車整備士資格試験に確実に合格する為の知識・技術を習得することのみならず、卒業後に社会に出たときの即戦力となるような、実践的かつ細やかな教育・指導を目指している。

7.カリキュラムの内容

今年度は自動車整備科として2年間で合計2153時間の授業時間数を設けており、国の定める指定時間1800時間をカバーしている。具体的には、2153時間のうち学科724時間、実習1429時間で構成されており、学科で学んだ自動車の知識をすぐに実習で実際に車を触って獲得していくという授業カリキュラムを立てている。実習時間を多く設けることにより、多様なメーカー車や二輪について学び、現場に出た時の対応能力を高める実践的授業に力を注いでいる。各メーカーに最新の自動車を持って来ていただき、技術指導、研修も実施している。また、ハーレーダビッドソンジャパンより実習車両の提供を受けて授業を開始している。このハーレーダビッドソンの授業を目的に入

学してくる学生もあり、他校には無い企画・授業展開を行っている。

自己判定：学科で学んだ知識を、すぐに実習で実際に車を触ってイメージを獲得していくというサイクル型の授業構成に関しては、学生からも評価を得ており、非常に教育効果の高いカリキュラム体制であると評価している。学生の苦手分野を克服する為の「寺子屋」制度での指導も非常に好評を得ている。産学接続型教育ともいえる取り組みは、学生にとってもスムーズな社会人への移行につながっており、就職への意欲をもって学習に取り組んでいる。各メーカーによる技術指導も、今後は状況を見てもっと授業数を増やしていければと考えている。

8.審査体制・修了要件

本学は国家資格である二級自動車整備士資格取得に向けて特に厳しい出欠管理が必要とされているため、前期・後期に行われる中間、期末試験の成績のみならず、出席時間数も厳格に管理の上で成績・単位認定を行っている。年度始めには成績評価・単位認定の基準の見直し修正を行い、月に一度のペースで職員会議を開くことにより全職員で学生の成績・出欠管理を行っている。また学生に対しては、入学時配布の『学生の規範』にて評価・認定基準を明記し、周知を図っている。

自己判定：試験の点数・出席時間数のみならず、日頃の授業態度も考慮して総合的判断を行っている。成績評価・単位認定ならびに出席状況については常に保護者への情報提供を行っているが、その情報が保護者までに留まり、学生まで行き届いていない場合がある。欠時率の高い学生ほど自らの状況を把握していないことが多いので、そういった学生の注意をより喚起する方法を模索しなければならないと考えている。ただ、ここ近年退学者が増えており、校内での対策が求められる。専門学校特有の技術指導に偏った接し方になっていないかなど今一度確認し、教員研修の機会を新たに設けるなどを検討する予定である。

9.学生の支援

・経済的支援

本校では、特待生・準特待生制度を設け、出席良好かつ成績優秀な学生に対して学費免除を行っている。同時に、必要な学生に対しては日本学生支援機構奨学金や国の教育ローンによる奨学金制度もサポートを行っている。入学選考の際は、指定校推薦入試、自己アピール推薦入試、一般推薦入試にて入学金の減免制度を設けており、近年では、女子入学金免除制度、兄弟入学金免除制度、社会人入学金減免制度の導入を行った。また新たに年内受験者応援制度、遠方入学者応援制度、留学生応援制度などのサポートシステムを導入することによって、入学者の経済的負担を軽減する努力を行っている。

自己判定：学納金については、本校募集要項に2年間の学費納入金額・内訳を明記し、承諾を得ている上、同分野の各専門学校と比較しても妥当なものであると考える。

学生並びに保護者に対する負担軽減のため、入学金免除・減免措置を最大限行っている。それでも経済的理由による退学が起きる現状を考え、より具体的な救済案を模索していかなければならない。

・資格取得

在学中の2年間で、アーク・ガス溶接、中古小型自動車査定士資格、危険物取扱者資格（丙種・乙種4類）、自動車損害保険募集人資格、低圧電気特別教育修了証の合計6つの資格試験に挑戦する。また、それぞれの資格試験対策も設けて万全のバックアップ体制をとっている。

二級自動車整備士資格試験については、毎年100%の合格率を目標に教職員一同指導に励んでいる。2年生後期になると「二級対策」授業を設け、二級自動車整備士資格試験合格への意識付けはもちろん、徹底した試験対策に取り組んでいる。

自己判定：本年度、全体的に、資格の取得率が低下したので、受験機会を増やすなどの対策をとって合格率の上昇を図っているが、やはり一回での合格を目指して資格試験対策に一層力を入れなければならないと考えている。各種試験に対して対策授業の時間数が増やせないかを検討をする。

二級自動車整備士資格については、合格率 100%を達成する為には早期からのサポート体制強化を認識しなければならない。次年度の対策を模索中である。

・就職・進学支援

早期の意識付けのため、例年入学直後に就職進路指導員が個別面談を行い、希望進路の聞き取りを行っている。今年度は5月の授業開始直後に個別面談を行い、7月のマナー講習と共に夏休みの就職活動に向けて指導を行っていった。また面談の際に学生本人の性格等も観察し、個々人の特性、個性を尊重した上で、一人ひとりをきめ細やかにサポートしている。

就職のための一般教養の授業時間を設け、就職ガイダンス、社会人としての基本的マナーはもちろんの事、履歴書の書き方、電話の掛け方を一から丁寧に教授し、面接・筆記試験対策、適性試験も行っている。

1年生の半ばには、各メーカーのディーラーが一堂に会した就職ガイダンスの場を設けている。各会社の採用担当者と直接話をする事により、様々なメーカー、ディーラーの違いを知り、希望する就職先の方向付けを行う絶好の機会となっている。学生には、このガイダンスによって自分の中の就職意欲を高めるとともに、将来の方向付け、なりたい自分像を明確化し、スムーズに就職活動のスタートを切れるように支援している。

更なるステップアップを目指して大学編入を希望する者に対しては、情報提供を行うことによりサポートしている。

自己判定：就職意欲の向上、将来への方向付けのみならず、授業に対する姿

勢も大きく向上するなど多角的効果が表れており、大いに評価に値する。また、親身な学生サポート制度は、保護者の方々からも好評を得ている。

・学生相談

学生の相談は随時全教職員で対応しており、一人ひとりの悩み・問題に親身になって対応するきめ細かなサポートを心がけている。学生本人だけではなく、保護者とも連携を強化することにより、学校・家庭の両方で学生の状態を把握し、より強力なバックアップ態勢を取れるよう努力している。

また、校内に学生相談室を設け、毎水曜日に公認心理師が在室している。学生生活はもちろんのこと、日常生活やプライベートな事まで、個室も準備して対応している。学生には家族・友人・先生に話しづらい事でも相談できる場所、教職員には専門的な見地からアドバイスを得る場所として活用できるよう周知に努めている。

自己判定：本校ではひとつのクラス・授業に対してそれぞれ担任・担当の先生がつき、放課後授業等も実施して、学生一人ひとりの性格や成長に合わせた継続的な指導を実践している。授業は自動車業界で経験を積んだ実績がある教員が担当しており、専門知識のみならず、実際の職場や業界についての相談にもしっかりと対応している。

学生相談室については、自発的に来室するのをためらう学生も多いため、教職員が気になった学生に来室を促して面談を実施している。今年度は自ら相談に訪れる学生も増えてきており、利用した学生からは「気持ちが楽になった」「不安が解消できた」など好評を得ている。学生が悩みや不安を抱えたまま学習意欲の低下につながらないように、更なる周知に努めなければならないと考えている。

10.教員の確保

本校の教員は各自動車ディーラーにて第一線で活躍してきた人材を採用し

ており、自動車の構造はもちろんのこと、様々なメーカーの様々な車種に対応可能である。実際 2 年間の就学期間で、全てのメーカーの車、並びに二輪の知識も習得することができる。

教職員数に関しては、中期的に計画と目標に沿った人事採用計画を策定している。

自己判定：本校教員は自動車業界で豊富な経験を積んでいる為、現場仕込みの知識と技術を活かした実践的な指導を行っている。また各ディーラーからの採用を行っている為、どのメーカーにも精通しており、学生の希望するどのディーラーにも就職可能である。

自動車分野における教員は豊富な経験が必要となるため、平均年齢が高くなっている。学生の目線に立った指導を考えると、若い教員の採用も進めていく必要があると考えている。

1 1.学習環境

・施設・設備

校舎建替えにより昨年 10 月から新たな校舎へ移転を実施した。年度途中の移転実施であったが、できるだけ授業に支障が出ないようにスケジュールで実施した。実際は旧校舎と変わらない環境で授業が実施できている。場所に関しても、広さのある場所に移転したため、学生からは思いのほか好評であり、目立ったトラブルは起きていない。学科教室、多目的室、進路相談室、食堂等、必要な教室を備え、全てに空調機能を完備している。

自己判定：校舎建替えにおける一連のスケジュールは、教職員の協力もあり、授業に支障が出ないように実施することができている。学生、保護者等からも特に目立った苦情等は出ておらず教育活動が実施できている。広さのある場所になったことで施設管理に手がかかるようになったが、教職員の協力により日々点検を行い、安全に使用できるよう注意を払っている。また、毎日清掃

を行うことにより常に校内を清潔に保っている。

令和8年度から新校舎にて教育活動を行う予定であるため今年度末に引越し作業となるが、学生や学校の運営に支障のないよう努める。

・学外実習

2年間の学校生活で、メーカー整備工場見学といった校外学習を行っており、自動車業界の現場を直接見て肌で感じるにより、学生の意欲・熱意を引き出す体験学習を行った。

自己判定：校外学習は、実際の現場見学や最新の車を目にするなどして更に自動車に対する興味を抱くよう導き、就学意欲向上に役立っている。

また、職業教育が求められる昨今、インターンシップの重要性を強く感じており、導入出来ればと考えているが、法定授業時間数を考慮すると、未だ実現に至っていないのが現状であり、課題が残る。

・防災体制

本校では、防犯面を民間のセキュリティー会社に依頼して管理を行っている。防災機器の点検等は随時実施し、職員に対しては緊急連絡網の整備、消防管理委員会構成表を毎年度見直し改正の上、徹底指導している。

自己判定：防災体制においては管理を徹底しており、学園創立以来現在に至るまで、一切の災害被害が起きていない事実は評価できると考える。移転先の建物が避難所に指定されていることから、学生の避難場所と地域の避難場所の整理を行ったうえで、災害備蓄品も備え避難計画を整備した。地域とも協議を進めており、地域の避難場所としての機能も備えつつ学生が安心して教育を受けることが

できる施設として毎年度見直しを実施する。

1 2. 財務

毎年度はじめに詳細な予算案を捻出しており、それに基づいた学校運営を行っている。また毎年特定預金を積んで財務基盤の安定を図っている。財務情報については、常に公開可能な状態を整えている。

自己判定：公認会計士監査により適正に運営されていると認められている。校舎建替えにおける移転および新たな校舎の建設において借入を実施していることから、安定した経営を目指すため、今一度経費の使途を見直していく必要がある。無駄を省き、より安定した財務基盤を作る為、注視していく必要がある。

1 3. 法令等の遵守

法令及び専修学校設置基準を遵守した適正な運営を行っており、常に教職員一同および学生にその理解を呼び掛けている。

個人情報保護については、個人情報管理規定を定め、学生管理システムを使用する教職員の個人情報取り扱いに対する意識を高め、基本方針を遵守する体制作りをしている。

自己判定：法令・設置基準の遵守は徹底しており、適正な運営を行っている。学生の個人情報は学生管理システムを使用して厳正に管理しており、明確な管理体制を確立している。

1 4. 自己点検・自己評価、学校関係者評価、外部評価

自己点検・自己評価については月に一度のペースで管理職会議を行い、財務から学生の状況に至るまで、あらゆる面での話し合いの場を設け、様々な問題に対しての点検・評価ならびに改善点の抽出を行っている。

学校関係者評価については、定期的に学校評価を受けており、問題点の指

摘については改善に取り組み、評価を得た点については更なる向上を目指して取り組んでいる。

また、自己点検・自己評価結果はホームページ上にて公開している。

自己判定：常に自己点検・自己評価を行うことにより、様々な視点で意見し合うことは、新しい発見をもたらし、教職員が一丸となって改善策を見出そうとする相乗効果を生み出している。また、結果を公開することにより外部の意見も取り入れる事ができ、学校運営の更なるレベルアップに繋がっている。